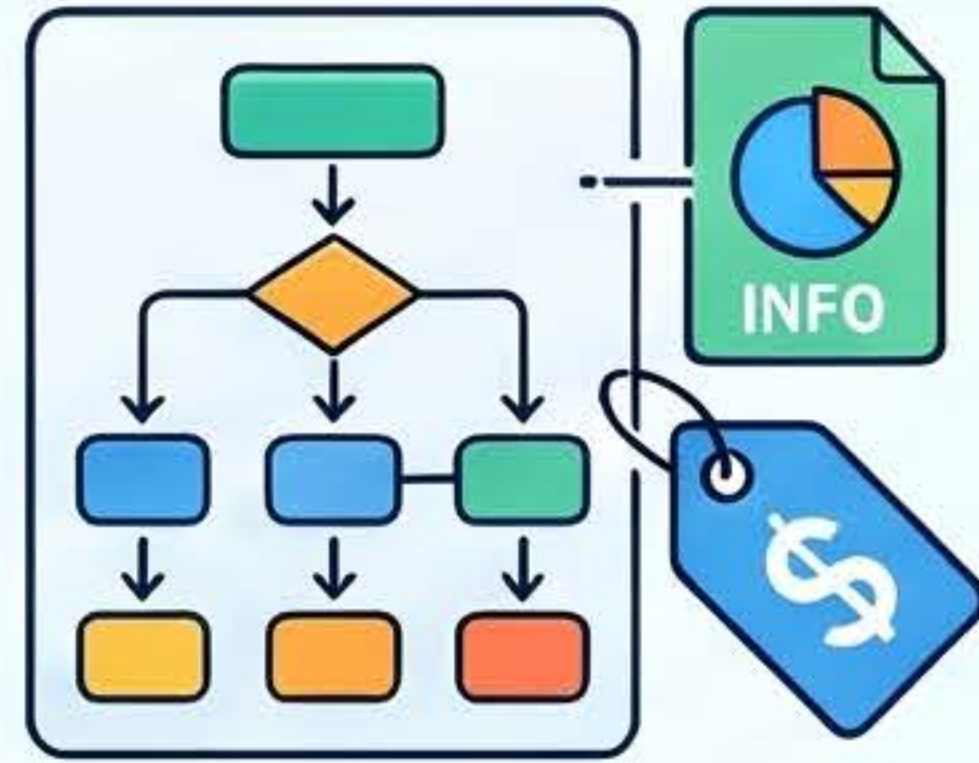


Nano Banana 2.1 vs. GPT Image 2.5：知財業務における使い分けガイド

2026年秋に登場したGoogleのNano Banana 2.1とOpenAIのGPT Image 2.5は、ともに高度な画像生成・編集能力を備えています。知財業務においては、文書解読や編集精度といった得意分野に応じて使い分け、出願や権利化に關与する最終工程ではAI依存を避ける運用が求められます。



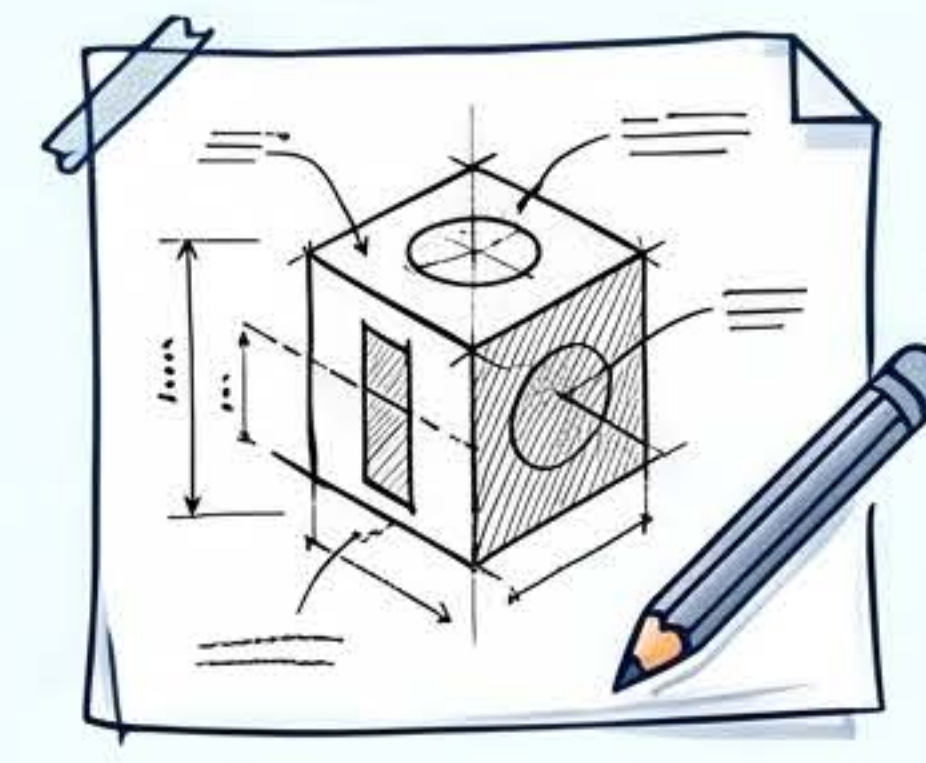
Nano Banana 2.1： 長文解読と低コストな図解に強み



長文文脈の読み込みとWeb検索連携に強く、
インフォグラフィック作成を安価に実行可能。



GPT Image 2.5： 精密な画像編集と被写体保持で高評価



手書き図の参照や部分編集の精度が高く、
主要な第三者ベンチマークで上位を記録。

知財業務における実務適用ガイドライン



Nano Banana 2.1を活用

経営資料・IPランドスケープ：
大量の文献やデータを読み込ませた概念図
・インフォグラフィックの作成に最適。



GPT Image 2.5を活用

発明者のラフ図清書・画像編集：
Sketch機能による手書き図の補正や、
既存部品の形状を保った精密編集に有効。



特許・意匠の証の最終図面とロゴ清書：両モデルとも使用不可
権利性の確保や権利侵害リスク回避のため、最終アウトプットは人間が作成すべき。

